

-
- 1, 透析生活への適応
 - ① 体験の積み重ねによる透析, 食事療法への慣れ
指導された食事の取り方が, 自然と身についてきた。
知識が増えた。
生活のペースが掴めた。
頭とからだで分かってきた。
飲み込めば, カンでできるようになった。
見ただけで大体分かるようになった。
 - ② 精神的要因
気にすると, 食事が取れないので。
最初はいろいろ心配があるので言われた通りやっていた。精神的に余裕が出たから。
これまでの実績が自信を生んできた。目方など計ってやる必要ない。
 - 2, 栄養指導に対する疑問, 生活者の論理
指導の通りやっていたら動けなくなったので。歩けない。
仕事に対する体力がつかないので, 自分の体に合うようにした。今のところどこも悪くないし。
からだもたないから。
好きなもの食って, 働いていればいい。透析患者だと思っていないので。
食べて働けば働くほど, カロリー, 塩分も必要になるし, 食べたくなくなる。
何食べても支障ないから。
他の患者にあまり制限するとHも上がらないし, 働けないといわれたので。
いろいろな情報が入ってくるようになってから。
昼間働くから, 少々取っても大丈夫という感じがある。
食事がおいしくないのでも, あまり無茶なことをしない範囲で食べている。
 - 3, 透析医療の向上や透析方法などの変更
 - ① 家庭透析になって
病院の看護婦に怒られないようにしていたが, そのストレスがなくなった。
教育を受けた。
 - ② 十分透析ができるようになって, そんなに厳しくやらなくてもいい。
透析の機械が良くなったので, 自由度が大きくなった。
 - ③ 週3回になって。
 - 4, 指導による変化
病院の方でも厳密にやらないでいいといわれた。
どんどん取るように言われた。
指導を受けてから。
 - 5, 体調が良くなってから
体調が良くなると頑張りがきかない。胃が良くなると自己管理ができない。
-